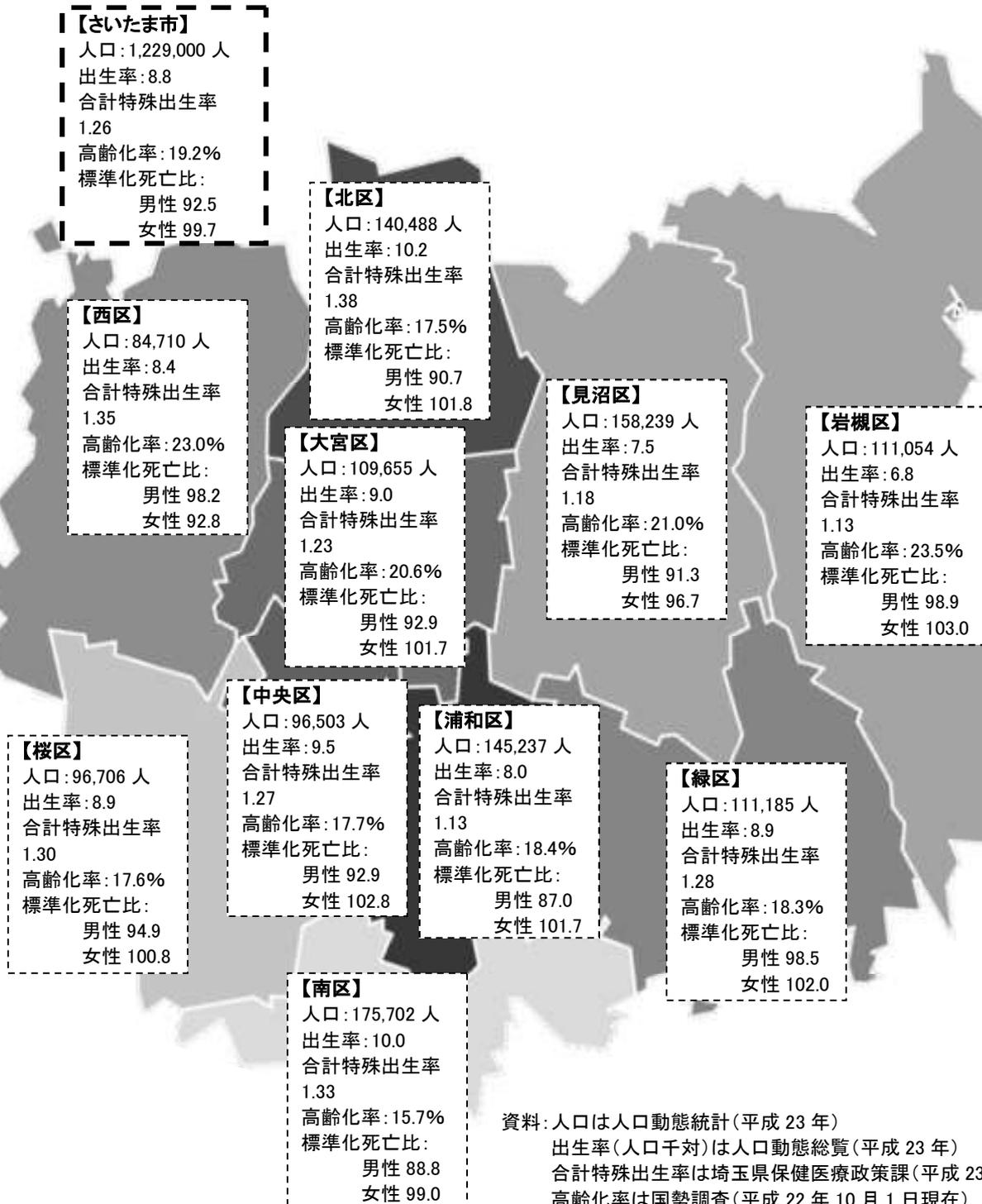


第6章

各行政区の目標と主な取組み

〔図 85 各行政区の状況〕



資料：人口は人口動態統計(平成 23 年)
 出生率(人口千対)は人口動態総覧(平成 23 年)
 合計特殊出生率は埼玉県保健医療政策課(平成 23 年)
 高齢化率は国勢調査(平成 22 年 10 月 1 日現在)
 標準化死亡比は人口動態統計特殊報告
 (平成 15 年～平成 19 年)

1 西区



【区の概況】

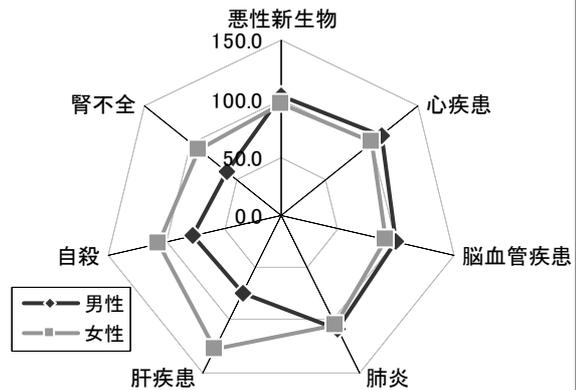
本市の北西部に位置し、面積は 29.14 km²です。区内には広大な緑の空間を抱える荒川、桜並木の美しい鴨川やびん沼川が巡り、大宮花の丘農林公苑や錦乃原桜草園などがあり、自然環境に恵まれた季節の花々も豊かな「水と緑と花のまち」です。また、祭りなど伝統芸能が今も親しまれ、地域文化が息づいたまちでもあります。

平成 21 年 3 月には J R 川越線西大宮駅が開業し、区役所を含む周辺の区画整備が進展しています。今後、西大宮駅周辺を中心に、活気に満ちた商業・業務機能の新たな拠点として、さらなる役割を發揮していくことが期待されています。

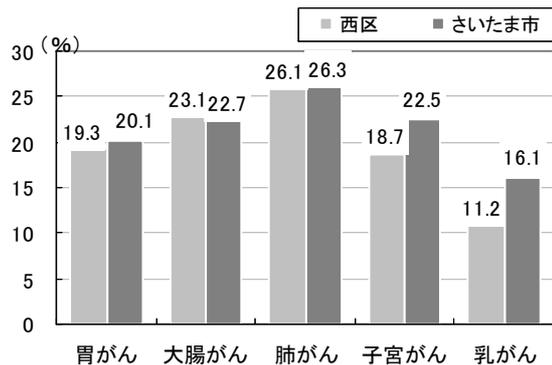
【健康づくりの現状と課題】

- ・西区の高齢化率は 23.0%で、10 区中 2 番目に高くなっています。今後、2~3 年で団塊の世代と呼ばれる昭和 22~24 年生まれの方が 65 歳を迎え、高齢化が急速に進むことが予想されます。
- ・標準化死亡率で見ると女性の肝疾患、自殺、男性の心疾患の割合が高くなっています【図 86】。
- ・がん検診受診率は、子宮がん、乳がんで市の平均を大きく下回っています【図 87】。そのため、受診率向上のための取組みが重要です。
- ・平成 22 年度における国民健康保険加入者の 1 人当たり入院医療費は、10 区中最も高くなっています。
- ・区民意識調査（H22）では、区役所から提供してほしい情報として「保健医療」が最上位となっています。また、隣近所とのつきあいの親密度は、前回調査時より低くなっている傾向があります。
- ・市民調査（H24）では、男女ともに「健康寿命」の認知度が低くなっています。また、喫煙・アルコール摂取の疾病への影響に「わからない」と答えた人の割合が高くなっています。さらに、女性では「良い生活習慣の実践」の割合も低くなっています。積極的かつ具体的な情報発信と普及啓発が必要です。

〔図 86 標準化死亡率（西区：平成 15~19 年）〕



〔図 87 がん検診受診率（平成 22 年度）〕



【健康づくりの現状と課題】

- ・市民調査（H24）では、運動習慣のある人の割合が市全体より低い傾向にあり、女性では6割強の人が運動習慣がないと答えています。「時間に余裕がないから」が最も多い理由となっており、時間がない方への取組みやすい運動の啓発が必要です。

■健康づくりの目標

区民が希望(ゆめ)や生きがいをもって、心身共に健康で豊かに暮らし続けたい、健康を実感できる「潤いあるまち《水と緑と花のまち》」を目指します。

1. 若い世代から健康づくりを意識した生活習慣の獲得。
2. 家族・地域・世代のつながりを大切にした健康づくりを実践。

■目標実現に向けた主な取組み

- 健康関連情報を、区報やホームページ、区役所ホールへの展示（健康！ほっとステーション等）、保健センターで実施する各種講座等で発信します。
- 健（検）診の受診につながるよう、強化月間を設けPRします。
- 区民や地域団体、関係機関と協働し、区民に必要な健康管理情報が行き渡るよう発信の方法を工夫し、普及啓発します。
- 学校・保育園・公民館・自治会等区民の身近なところで健康関連情報が得られるようにします。
- 地域の社会資源を有効活用し、家族ぐるみ・地域ぐるみの健康づくりを支援します。
- 引き続き自主グループや地域団体の活動支援に取り組めます。
- 西区の豊かな自然環境を生かした健康づくりに取り組めます。
- 時間がない方でも取組みやすいウォーキング等を、親しみやすい身近な地域で展開します。
- 農業関係者と連携し、地元生産物を生かした食育事業を展開します。

参考指標：がん検診受診率（①乳がん ②子宮がん）、65歳の健康寿命、
たばこ、飲酒の体への影響（市民調査による）

2 北区



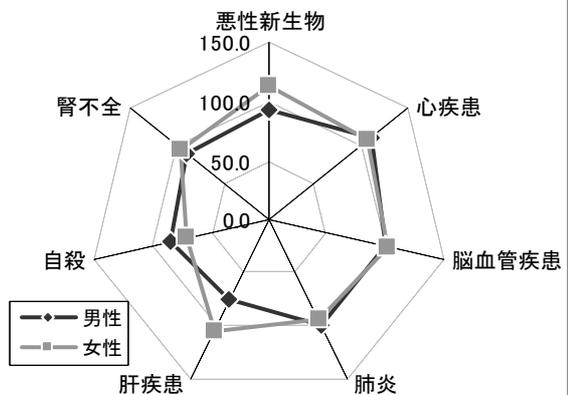
【区の概況】

本市の北部に位置し、区域面積は 16.91 km²。本市の副都心に位置づけられている日進・宮原地区は、土地区画整理事業などにより、良好な市街地が形成されています。また、市民の森や太田道灌ゆかりの三貫清水などの緑に恵まれ、世界に誇る大宮盆栽村や公立の大宮盆栽美術館、北沢楽天ゆかりの漫画会館、日進餅つき踊りなどの個性豊かな地域資源があります。

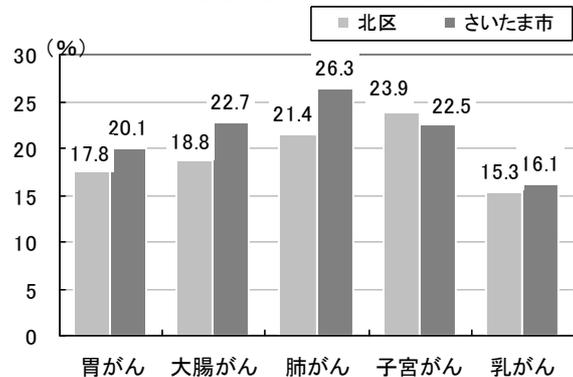
【健康づくりの現状と課題】

- ・ 合計特殊出生率が 1.38 と市内で最も高くなっています。
- ・ 標準化死亡率では、女性の悪性新生物と肝疾患、男女の心疾患の割合が高くなっています【図 88】。
- ・ 平成 22 年の死因別死亡率から、北区は悪性新生物のうち、結腸・直腸S状結腸移行部及び直腸の死亡率が市の平均より高くなっています。
- ・ 平成 22 年度のがん検診の受診率は、子宮がん検診は本市の平均を超えています、その他のがん検診は下回っています【図 89】。
- ・ 特定健康診査の受診率は、男女ともに本市の平均をやや下回っています【図 90】。
- ・ 特定健康診査の対象者のうち、2年以上継続した受診者が少なく、特に 50 歳代後半、60 歳代後半、70 歳代に継続した受診者が少ない傾向にあります。

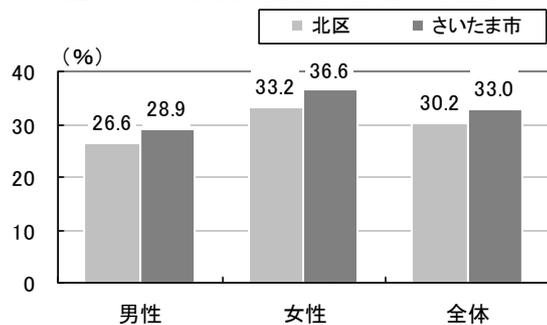
〔図 88 標準化死亡率（北区：平成 15～19 年）〕



〔図 89 がん検診受診率（平成 22 年度）〕



〔図 90 特定健康診査受診率（平成 22 年度）〕



【健康づくりの現状と課題】

- ・健康診査結果から本市全体の血糖値は県内市町村の平均より高く、北区では、肥満・非肥満者とともにHbA1cが市平均より高い傾向にあり、糖尿病予防対策が重要です。
- ・市民調査（H24）からは、運動習慣のある人が市の平均より比較的高く、その中でウォーキングが多くみられます。その反面、1日の歩数30分未満（3,000歩）の人も多い傾向にあります。また、たばこをやめたい、吸う本数を減らしたいと思っている人が多く、関心度が高い傾向にあります。

■健康づくりの目標

1. 子育て世代から、生活習慣病の予防対策として、禁煙・運動・適正体重の維持推進、がん検診及び特定健康診査の受診率向上に努めます。
2. 地域のコミュニティとの協働を図り、地域の団体・組織等との連携を強化することにより、区民が健康情報を得る機会を増やします。それにより、区民が自主的に健康づくりに取組んでいけるよう促します。

■目標実現に向けた主な取組み

- 各種健康診査の結果や生活習慣病予防の方法など、区民の健康に関する情報を区報、ホームページ、区役所展示コーナー、保健センターで実施する各種講座等を通じて発信します。
- 各種健康診査の受診率向上のため、保健・医療ガイドマップを作成し、実施医療機関をわかりやすく表示するとともに、転入者向けのPRを強化します。
- ウォーキング教室等を開催し、ウォーキングマップや健康倍増ガイドブックの活用を促すことで運動習慣の定着を推奨します。
- 禁煙、適正体重の維持、適切な食事の重要性を啓発します。
- 食生活改善推進員、地域の学校、公民館、健康づくりの自主グループや地域の団体等との連携をさらに強化し、団体の活動状況を紹介するコーナーを設置します。
- 地域の団体との連携の際に、視聴覚教材を活用した健康づくりを周知します。

参考指標：がん検診の受診率、特定健康診査の年代別受診率

3 大宮区



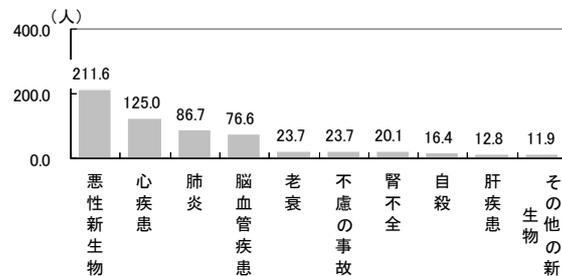
【区の概況】

本市の中央部の北寄りに位置し、区域面積は 12.75 km²。区の中には、全国有数のターミナル駅である大宮駅と県内一の商業・業務地区を擁し、その周辺には閑静な住宅街が広がっています。また県内随一の繁華街があり、飲食店の数が多い特徴があります。区内には、大宮公園や氷川参道、鉄道博物館、野球場、NACK 5 スタジアム大宮、自治医科大学附属さいたま医療センターなどがあり、市の交通・経済の中心地として、発展を続けています。

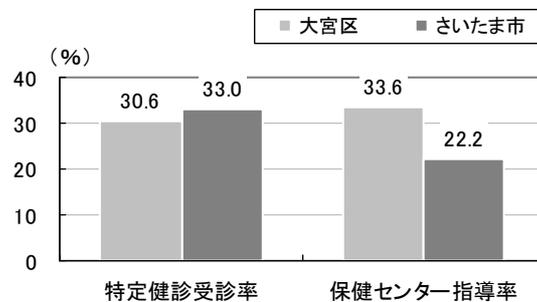
【健康づくりの現状と課題】

- ・高齢化率が 20.2%と市内で 4 番目に高齢化が進んだ区となっています (H24.1)。年少人口、生産年齢人口が減って、高齢人口が増えています (H23)。また、市民調査では単独世帯が多くなっています。
- ・主要死因では腎不全が過去 5 年と比較して上昇しています (H22)【図 91】。
- ・特定健康診査の受診状況は、男女とも市の平均をやや下回っていますが、特定保健指導率は平均を上回っています【図 92】。
- ・がん検診受診率は、肺がん検診、大腸がん検診、胃がん検診、子宮がん検診で市の平均をやや下回っています【図 93】。
- ・国民健康保険の受診データでは、健康診査未受診理由が受療中である人が多く見られましたが、1 人当たりの医療費は他の区に比べ低い傾向にあります。
- ・HbA1c 受診勧奨域が高く、主要死因の腎不全の上昇からも糖尿病予防対策が重要です。

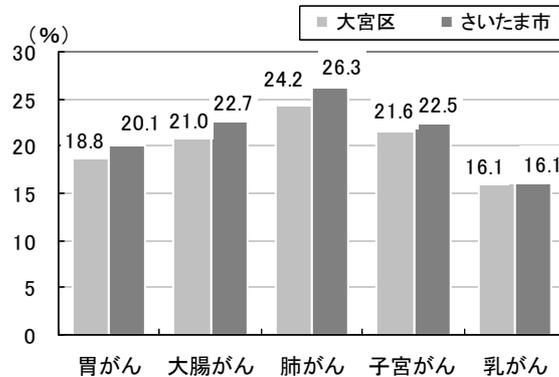
【図 91 死因順位 10 位までの人口 10 万対死亡率 (主要死因別) (平成 22 年)】



【図 92 特定健康診査受診状況 (平成 22 年度)】



【図 93 がん検診受診率 (平成 22 年度)】



【健康づくりの現状と課題】〔市民調査（H24）から〕

- ・健診・がん検診受診者は市の平均より高く、人間ドックの利用が多い傾向があります。また、検査項目の異常ありの割合は高いですが、受診者も多くなっています。
- ・健康や経済不安等からストレスを感じる人の割合が高い一方、健康に気をつける人の増加や人間ドックの利用が多く、健康への関心の高さがうかがえます。
- ・たばこの害や生活習慣改善については、年代による差はあるものの、おおむね知識がある人が増えていますが、実際の生活習慣は変えられない人が多く、行動変容への支援が必要です。
- ・運動をしたい人が多くなっていることから、運動機会の充実を図る必要があります。
- ・飲酒量や頻度が以前の調査より高く、特に 50 歳代が顕著なことから、適切な飲酒の普及が必要です。
- ・地域のつながりでは、若者層の地域への信頼感が薄いなど世代間の差が見られます。

■健康づくりの目標

1. 子育て世代からの生活習慣病予防を意識した生活スタイルの獲得
 - ・運動習慣の獲得と適正体重の維持
 - ・適正飲酒をする人の増加
 - ・女性のがん検診の受診率の向上
2. 地域のつながりの強化や関係団体との協働
 - ・地域のソーシャルキャピタルの向上と共助への支援

■目標実現に向けた主な取組み

1. 子育て世代からの生活習慣病予防を意識した生活スタイルの獲得
 - 運動習慣の獲得と適正体重の維持のため、バランスの取れた食習慣の啓発や氷川参道や大宮公園などのウォーキングマップを利用した教室等を行っていきます。
 - 適正飲酒についての啓発を行います。
 - 女性のがん検診の受診率の向上を図るため、女性特有のがんや病気についての講座や生活習慣病についての啓発を行っていきます。
 - ・親子の教室などで、親と子双方への働きかけを行っていきます。
 - ・区報、ホームページ、区役所情報コーナー、保健センター掲示板等で健康に関する情報を発信するとともに、健康に関するPRを週月決めで、重点的に行います。
2. 地域のつながりの強化や関係団体との協働
 - 食生活改善推進員や民生委員等の地域団体との連携のさらなる強化を図ります。
 - 区内の自然や施設を利用し、地域でのつながりを意識した運動習慣のための自主的なサークルの養成や支援を引き続き行います。
 - 公民館を利用した事業や公民館報等で保健センター事業の広報を行います。
 - 区民まつりで生活習慣病予防のための生活習慣改善や歯の健康等の重要性について啓発を行います。

参考指標：運動習慣ありの割合、飲酒を毎日する人の割合、子宮がん・乳がん検診受診率

4 見沼区



【区の概況】

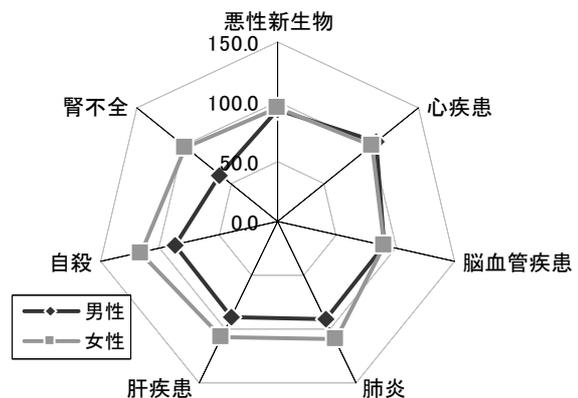
本市の北東部に位置し、区域面積は 30.63 km²で、人口・面積とも 10 区の中で 2 番目の規模を有しています。区域の北側にはアーバンみらい東大宮を中心とした新興市街地が形成され、南側には見沼田んぼが広がり、見沼代用水東縁沿いに緑のヘルシーロードが整備されるなど、都市的な生活環境と自然の共生が魅力的な街です。

【健康づくりの現状と課題】

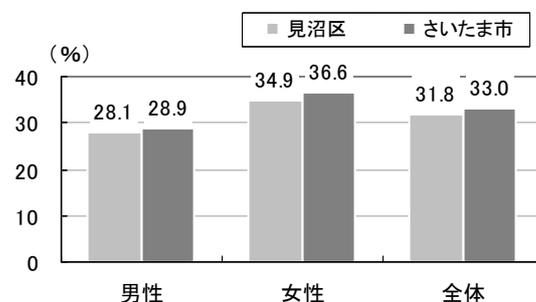
- ・高齢化率は 21.0% (H24.1) と 10 区中 3 番目に高く、10 代での出産数及びひとり親家庭等医療数は最も多い状況となっています。
- ・標準化死亡比では、女性の自殺、肝疾患、肺炎の割合が高くなっており、こころと身体の健康管理の支援に取り組む必要があります【図 94】。
- ・腎機能障害による身体障害者手帳所持者数は年々増加しており、市内で最も多い区となっています。腎不全にならないよう、糖尿病等の生活習慣病の重症化予防が重要です。
- ・特定健康診査受診率は、市の平均より下回っており、受診率向上のための啓発が必要です【図 95】。
- ・がん検診受診率は、すべてのがん検診で市の平均を下回っています【図 96】。

特に肺がん・結核検診、子宮がん検診は低い状況です。特定健康診査同様、積極的な普及啓発が必要です。

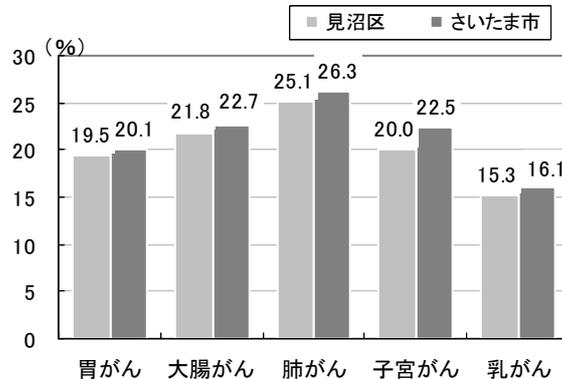
〔図 94 標準化死亡比（見沼区：平成 15～19 年）〕



〔図 95 特定健康診査受診率（平成 22 年度）〕



〔図 96 がん検診受診率（平成 22 年度）〕



【健康づくりの現状と課題】〔市民調査（H24）から〕

- ・男性で朝食を毎日とる割合が7割程度であるため、1日3食食べる重要性の啓発を引き続き推進する必要があります。
- ・運動習慣がない30～40歳代が6割前後で、理由として「時間に余裕がないから」となっており、日常生活における階段利用など取り組みやすい運動の啓発が必要です。
- ・毎日飲酒している割合は男性が市内で2番目、女性は1番目に高く、男性の1合以上の飲酒割合も5割近いことから、節度ある適度な飲酒習慣の啓発が必要です。
- ・女性の喫煙割合が高いものの、やめたいと思う割合が約6割と多いことから、禁煙支援が望まれます。
- ・ストレスが解消できていない割合は、男性が市内で2番目、女性が3番目に高いことから、ゆっくり深呼吸をするなどのストレス解消方法の普及が必要です。

■健康づくりの目標

区の将来像である「見沼の自然との共生」を目指し、区民との協働により、区民一人ひとりが心身共に健やかで生き生きとした生活の実現に努めます。

1. 若い世代から生活習慣病予防に興味・関心がもてる意識づくり
2. 地域環境の活用、組織や団体との連携による地域とつながりある健康づくり

■目標実現に向けた主な取組み

- 正しい食習慣、身体活動量増加の工夫、節度ある適度な飲酒、禁煙、心身の健康バランスのとり方、各種健（検）診の受診などを重点に、区報、ホームページ、区役所事業、展示コーナーや保健センターの教室等あらゆる機会に情報発信・普及啓発に努めます。
- 若い世代からの生活習慣病予防のため、親子で参加しやすい事業を充実します。
- 健（検）診受診率の向上に向け、区報やホームページで年数回の受診勧奨を行います。
- 節度ある適度な飲酒習慣を獲得するため、こころの健康センターや保健所等と連携し、「エコ飲みプロジェクト」を活用した取組みを推進します。
- 恵まれた自然環境を生かし、区民によるウォーキンググループ活動の活性化を図るとともに、公民館・コミュニティ施設・スポーツ施設等関連施設や地域の団体（自治会、スポーツ振興会）等と連携し、地域のつながりを重視した健康づくりを促進します。
- 食生活改善と地産地消を目指し、市役所関係課所や地域の組織（食生活改善推進員、さいたま市女性農業者連絡会、保健愛育会）等と連携し、地域資源を生かした取組みを推進します。

参考指標：朝食を毎日とっている割合、運動習慣がある割合、毎日飲酒している割合、タバコを吸う割合、ストレスを解消できている割合、特定健康診査受診率、がん検診受診率

5 中央区



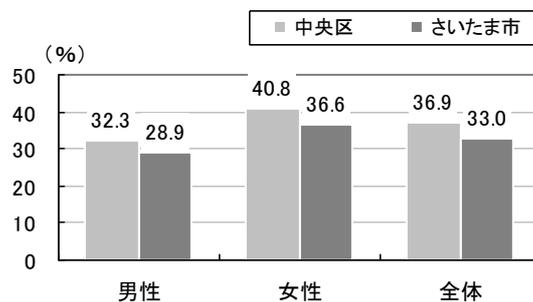
【区の概況】

本市のほぼ中央部に位置し、区域面積は 8.39 km²。旧与野市にさいたま新都心の一部が加わった区域です。交通の利便性が高く、さいたまスーパーアリーナや彩の国さいたま芸術劇場などの芸術・文化施設があり、新都心を軸とする新しい都市機能と、いにしへの歴史・文化の共存を目指しています。

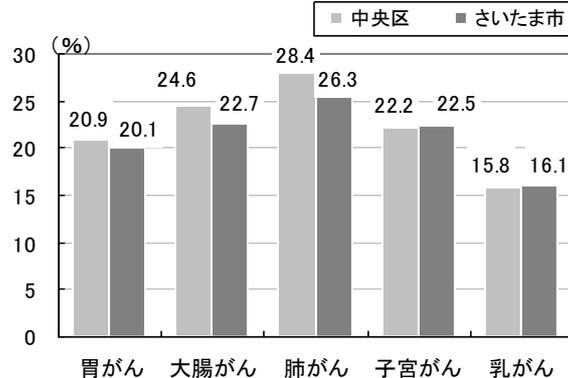
【健康づくりの現状と課題】

- ・生産年齢人口が 68.4%と市内で第 2 位（平成 23 年度保健所・保健センター事業概要）、高齢化率は 17.7%と市の平均 19.2%を下回っています（平成 22 年国勢調査）。また出生率（人口千対）は 9.5 と市内第 3 位です。
- ・特定健康診査受診状況【図 97】は、男女共に市の平均より高く、連続受診者が多くなっています。受診結果から非肥満で服薬している人が多い傾向にあります。服薬している人は、脂質が高めな人が多い傾向にあります。
- ・がん検診受診率【図 98】は、肺がん、大腸がん、胃がん検診が市の平均を上回り、子宮がん、乳がん検診は市の平均とほぼ等しくなっています。
- ・市民調査（H24）から、健康について「健康に気をつけている」「良い生活習慣にすぐにも改善したいと思う」と答えた人の割合が低く、消極的な傾向がうかがえます。健診の受診率は高いが、標準化死亡比【図 99】で見ると男性の心疾患、脳血管疾患、女性の心疾患、肺炎の割合が高く、健診結果に応じた生活習慣についての改善が望まれます。

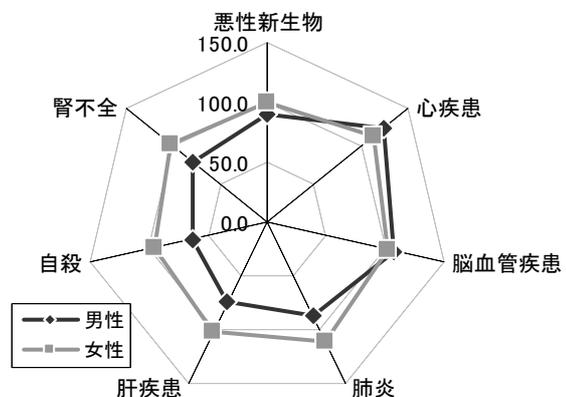
〔図 97 特定健康診査受診状況（平成 22 年度）〕



〔図 98 がん検診受診率（平成 22 年度）〕



〔図 99 標準化死亡比（中央区：平成 15～19 年）〕



【健康づくりの現状と課題】

- ・市民調査（H24）では、食生活面で「食事は腹八分までにしている」「自分にとって適切な食事の内容・量を知っている」と答えた人の割合は男女共に低い傾向にあることから、適切な食習慣についての普及が必要です。
- ・市民調査（H24）では、運動面で男性は「運動習慣がある」と答えた人の割合は高いが、女性は「日頃から、意識的にほとんど体を動かしていない」と答えた人の割合が高いことから、運動習慣についての普及が必要です。
- ・保健センターを中心に、健康づくりに関する教室は実施していますが、地域にある関係団体と連携・共催し実施する事業が少ないことから、地域と連携した健康づくりの充実が必要です。

■健康づくりの目標

1. 若い世代から日常生活に運動が取り入れられ、適切な食習慣を獲得する。
2. 区民自らが健康に関する意識を高め、主体的に健康づくりに取り組むことができる。

■目標実現に向けた主な取組み

- 各種健（検）診及び市民調査の結果並びに生活習慣病予防の方法など区民の健康づくりに関する情報を区報、ホームページ、区役所展示コーナー、保健センター事業などで発信します。
 - ・運動習慣や適切な食習慣について重点的に啓発します。
 - ・各種健（検）診受診率向上のための啓発をします。
- 地域での取組みを強化します。
 - ・食生活改善推進員などの地域の団体と連携し、健康づくりに関する普及啓発の担い手を増やします。
 - ・区内の関係機関と連携し、地域での健康づくりの取組みを支援します。
 - ・引き続き、健康づくり自主グループの育成支援に取り組めます。

参考指標：各種がん検診受診率、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合（食育に関する市民調査）、運動習慣のある人の割合（市民調査）

6 桜区



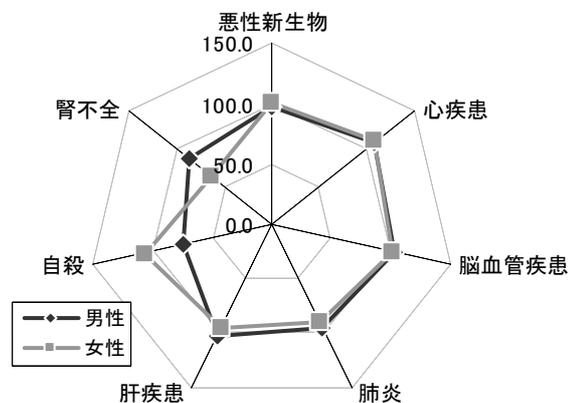
【区の概況】

本市の南西部に位置し、区域面積は18.60 km²。西側を流れる荒川の河川敷(国指定特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地あり)、さくら草公園や秋ヶ瀬公園、荒川総合運動公園などの良好な自然環境があり、水田や畑などの豊かな田園環境も残されています。東部や南部には、住宅を中心とする市街地が形成され、新大宮バイパスに沿って流通業務施設や工場が立地しています。東西方向を走る国道463号沿いには埼玉大学があり、国際色豊かな学生が集う街でもあります。

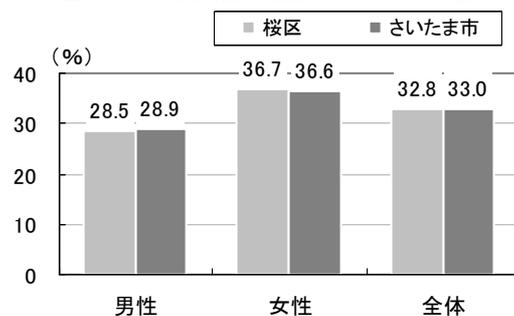
【健康づくりの現状と課題】

- ・高齢化率は市の平均を下回り、合計特殊出生率は1.30と市の平均より高い水準にあります。
- ・死亡要因は、市同様に悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の順に高くなっています。標準化死亡比で見ると、女性の心疾患、自殺、男性の心疾患の割合が高くなっています【図100】。
- ・特定健康診査の受診率は、市の平均とほぼ等しくなっています【図101】が、単発または隔年での受診が高い傾向にあります。
- ・がん検診受診率は、胃がん検診、乳がん検診が市の平均を大きく上回り、その他についても市の平均を上回っています【図102】。
- ・3世代家族の割合が高い反面、新興住宅地や埼玉大学の学生街もあり、単身・核家族世帯が多い地域が混在しています。
- ・保健センターの教室参加者が区役所周辺エリアの住民に偏り、全般的に教室充足率も低い傾向があることは、区役所が区の中央に位置していないことが理由と考えられます。

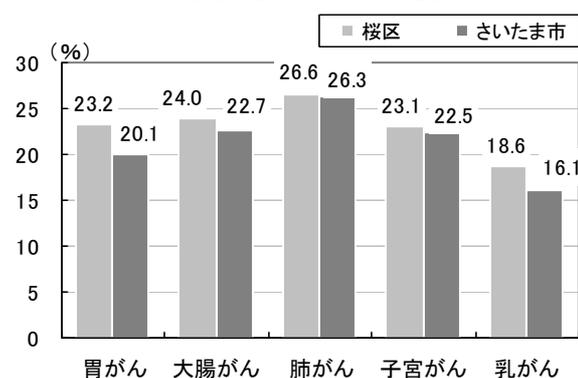
〔図100 標準化死亡比（桜区：平成15～19年）〕



〔図101 特定健康診査受診率（平成22年度）〕



〔図102 がん検診受診率（平成22年度）〕



【健康づくりの現状と課題】〔市民調査（H24）から〕

- ・男女共に「健康でない」と思う人の割合が高い傾向が見られます。
- ・運動面においては、運動習慣のない人の割合が多く、1日に歩く時間（歩数）、ストレス解消法として体を動かす方法を選ぶ人が少ないことから、日常的な運動習慣の普及を図る必要があります。
- ・若年からの喫煙・飲酒率が高く、朝食を毎日食べる人の割合が少なくなっています。また、菓子類を食事代わりに食べる人も多く、歯みがき以外の口腔ケアを行っている人の割合も低いいため、若い世代からの正しい生活の習慣を身に付ける必要があります。
- ・男女共に喫煙率が高く、たばこをやめたいと思う人が多いが、たばこが健康へ及ぼす影響（受動喫煙含む）について知っている人の割合が低く、ストレス解消法として、たばこを吸う人の割合も高いことから、たばこが健康に及ぼす知識の普及が必要です。
- ・ストレスの解消法として、友人や家族に相談する人の割合が本市全体と比べて低い傾向があり、地域のつながりがあると感じている人の割合も低いことから、地域で取り組む健康づくりの充実を図る必要があります。

■健康づくりの目標

1. 健康を実感出来る住民の増加
2. 若い世代からの健康的な生活習慣の獲得

■目標実現に向けた主な取組み

- 各種健（検）診の受診率や、市民調査の結果、生活習慣病予防の方法など、区民の健康に関する情報を区報、ホームページ、区役所展示コーナー、公民館、学校、保健センターで実施する各種講座等で情報発信します。
- 「禁煙」「運動習慣の獲得」「適正体重の維持」の重要性について重点的に啓発します。
- ウォーキングを軸とした、健康づくりの自主グループづくりや活動の支援を行います。
- 地域団体と連携し、地域のつながりを意識した保健事業を展開します。
- 保健師等が地域に出向き、学校保健や地域団体と連携し健康教育を実施します。

参考指標：がん検診受診率、特定健診受診率

7 浦和区



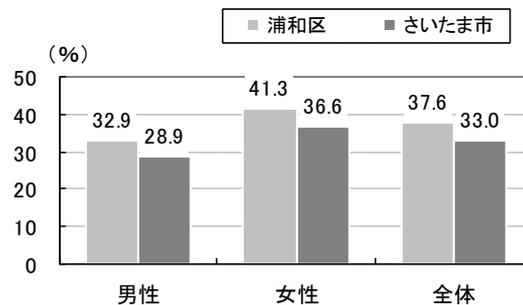
【区の概況】

本市の中南部に位置し、区域面積は 11.51 km²。JR 線の 3 駅（浦和駅、北浦和駅、与野駅）があり、浦和駅周辺は商業・業務機能や行政機能が集積しています。JR 線沿線を境に西側にはオフィス街が、東側は緑の多い住宅街が広がり、美術館や図書館、科学館、スポーツ施設、高等学校等も多く、教育・文化に関わる資源に恵まれています。

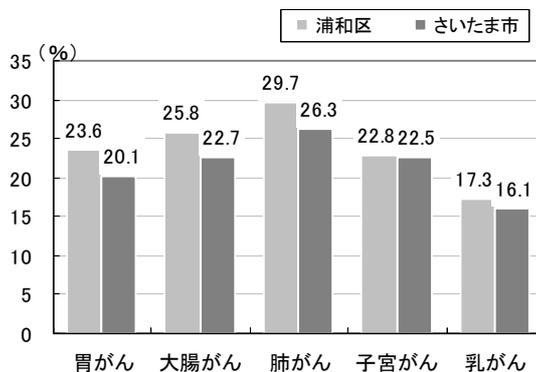
【健康づくりの現状と課題】

- 人口密度は 10 区中一番高く、人口移動が多い区です。高齢化率は市の平均を下回り、合計特殊出生率は 1.13 と市内で最も低くなっています。
- 特定健康診査受診率【図 103】、がん検診受診率【図 104】は市の平均を超えていますが、目標には達していません。特定健康診査は 40 歳・50 歳代の未受診が多い状況です。
- 子宮がんによる死亡率が埼玉県・市の死亡率に比べて高くなっています。
- 特定健康診査の結果から、現在治療をしていない方の中で HbA1c 値が受診勧奨値以上の方の割合が市全体よりやや高くなっています。
- 市民調査（H24）では、意識的な運動習慣のある方が多い反面、1 日に歩く時間が 1 時間未満（6,000 歩未満）の方が多く傾向にあることから、ウォーキング等のさらなる普及が必要です。
- 市民調査（H24）では、朝食を毎日食べていない方の割合が市民調査（H17）と比較し改善していないことから、朝食の摂取の啓発が必要です。
- 市民調査（H24）では、男性は「ストレス解消に飲酒」「寝酒」「3 合以上飲酒」の割合、女性も「3 合以上飲酒」の割合がそれぞれ市内 1 位となっていることから、適切な飲酒の啓発が必要です。
- 市民調査（H24）では、地域のつながりがあると感じる方の割合が比較的高い傾向にありますが、区民意識調査（H21）では、20～30 歳代は近隣とあいさつをかわす程度の方が多く傾向が見られることから、地域のつながりを深める健康づくりの普及が必要です。

〔図 103 特定健康診査受診率（平成 22 年度）〕



〔図 104 がん検診受診率（平成 22 年度）〕



【健康づくりの現状と課題】

- ・区民意識調査（H21）では、区役所からの提供を希望する情報として「保健医療について」が約半数で最も多く、区の情報提供を充実させる方策として「ホームページを充実する」という回答が多いことから、ホームページ等を通じた情報提供の充実が必要です。

■健康づくりの目標

浦和区は健康で共に支え合うまちづくりを目指します！

1. 若い世代からの健康的な生活習慣の獲得

「運動の習慣化」「食生活の改善」「適正な飲酒」「適正体重の維持」
楽しみながら、できることから始めましょう！

2. 健康診査・がん検診の受診率向上

年に1度、健康をチェックしましょう！

3. 関係機関・地域団体と協働した健康づくりの推進

身近な地域で人のつながりを大切に、健康づくりの輪をひろげましょう！

■目標実現に向けた主な取組み

1. 若い世代からの健康的な生活習慣の獲得

- 生活習慣病予防に関する情報、がん検診受診率等区民の健康に関する情報を区報、ホームページ、保健センター展示コーナー等でわかりやすく提供します。
- 区民が運動習慣を獲得できるように、誰もが気軽に取組めるウォーキング等を組み込んだ事業を展開します。
- 若い世代から主食・主菜・副菜を揃えた食事の大切さ、1日3食しっかり食べることの大切さについて啓発を行います。
- 適正飲酒の重要性について啓発を行います。

2. 健康診査・がん検診の受診率向上

- 疾病の早期発見・早期治療のために健康診査・がん検診等の受診率向上に向けた啓発を行います。特に女性のがん検診の受診に向けた啓発を行います。
- また、健診結果によっては適切な受診・治療継続の重要性についても啓発を行います。

3. 関係機関・地域団体と協働した健康づくりの推進

- 市民活動団体、食生活改善推進員、愛育会、自主グループ、公民館等と健康で共に支え合うまちづくりを進めるための情報交換や検討を行い、健康づくり事業を計画・実施します。
- 保健師等が地域に出向き、関係機関・地域団体と協働した健康づくり事業を実施します。

参考指標：がん検診受診率、運動習慣のある人の割合、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合

8 南区



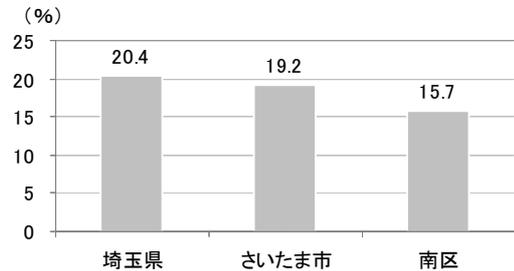
【区の概況】

本市の南端に位置し、区域面積は13.89 km²。市内最大の人口を有し、武蔵浦和駅、南浦和駅及び中浦和駅の3駅があり、武蔵浦和地区では、都市型住宅の供給とともに商業・業務機能の集積を図っています。また、区全域にわたって、水辺空間や河川・水路が広がり、公園・緑道として整備されています。

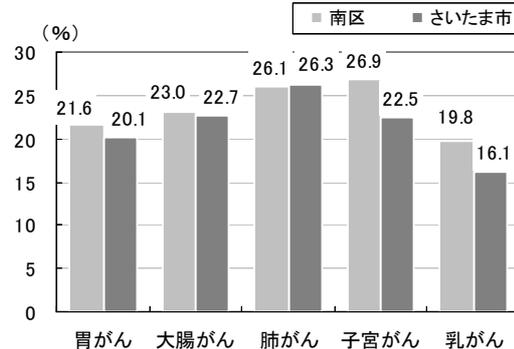
【健康づくりの現状と課題】

- ・平成24年10月1日現在、人口176,422人と10区で最大の人口で、今後も増加が見込まれています。
- ・転出入の人口移動が最も大きく、都心のベッドタウンとなっています。また、高齢化率15.7%と最も低い一方【図105】、年少人口比率、出生率が高い地域であり、若い世代へのアプローチが不可欠です。
- ・医療費は、男性が脂質異常症、女性は脳血管疾患（脳梗塞）の金額が高いことから、生活習慣病の重症化予防に取り組む必要があります。
- ・女性の乳がん、子宮がん検診の受診率は高く【図106】、健康への意識の高さが伺えます。
- ・市民調査（H24）では、常勤就労者が多く、健康状態が男女共「健康」と感じている人の割合が高くなっています。運動習慣のない男性が多い一方で、「1時間30分以上歩いている」、「健康に気をつけている」、「ストレスをほとんど感じていない」、「生きがいを持っている」と感じている女性の数は多く、女性の健康意識は高くなっています。
- ・市民調査（H24）では、朝食欠食が男女共多く、男性は外食率も高くなっています。また、たばこを吸う男性が多く、生活習慣病やCOPDの認知度は男女共低いことから、喫煙に対する知識啓発が必要です。
- ・本市の歯科健康診査以外の健診も含めると、南区民の歯科健康診査受診率は高いが、市民調査（H24）では1日1回丁寧に歯をみがく人は男女とも低いとため、セルフケアの知識と技術獲得への支援が必要です。
- ・ヘルスプランを知った情報源は、男女共ホームページが高いため、PR方法の一つとして一層の活用を図る必要があります。

【図105 高齢化率（平成22年度）】



【図106 がん検診受診率（平成22年度）】



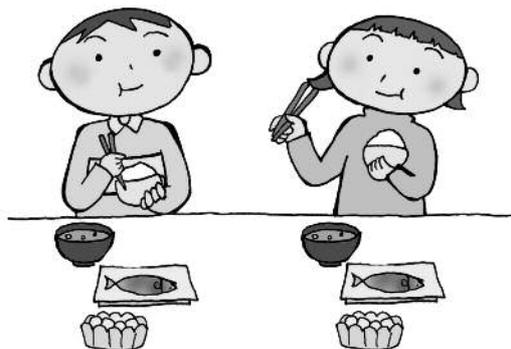
■健康づくりの目標

1. 生活習慣病の改善、重症化予防のため、子育て世代から健康を意識した生活スタイルが獲得できる
2. 区民が主体的に健康づくりに取り組むための知識が得られる

■目標実現に向けた主な取組み

- 地区健康教育や保健センター事業等で「朝食を食べる」大切さについて伝えます。
- 子どもや健康意識の高い女性を通じて、家庭へ健康に関する知識の普及啓発を行います。
- 日常生活の中で身体活動を向上できるよう、ながら運動や歩く機会の提供を行います。
- 保健センター事業等でチラシやグッズを使用し、禁煙や分煙の必要性について伝えます。
- 禁煙対策と連携した歯周病予防の情報提供を行います。
- 定期的ながん検診や歯科健康診査の受診勧奨を行います。
- 歯、口腔のセルフケアの知識・技術獲得への支援を行います。
- ホームページを活用した健康づくり情報の発信を行います。

目標指標：朝食を「ほとんど毎日食べる」人の数、禁煙率、がん検診受診



9 緑区



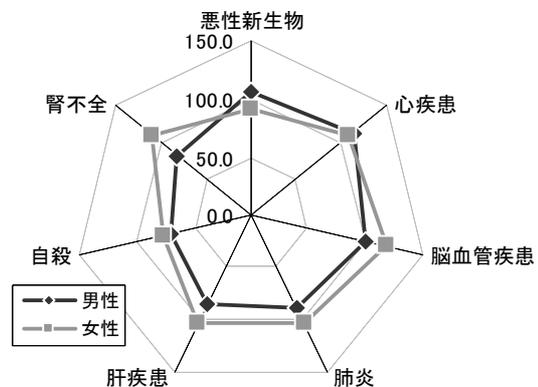
【区の概況】

本市の東南部に位置し、区域面積は 12.19 km²。新しい鉄道や道路交通網などとともに、秩序ある市街地が整備され、良好な住宅地と植木や花卉を栽培する農業緑地、綾瀬川、芝川、見沼代用水東縁・西縁などが調和し、花と緑あふれる季節感の味わえる地域となっています。

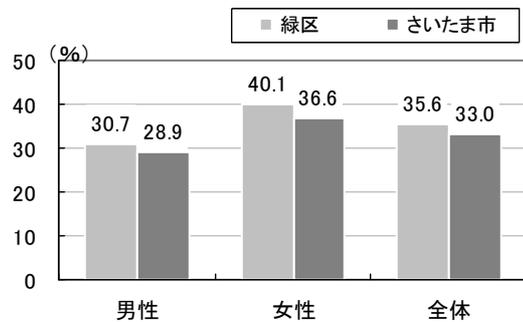
【健康づくりの現状と課題】

- ・高齢化率は市の平均を下回る一方で、合計特殊出生率は 1.28 と市の平均より高くなっています。また 30～40 歳代の人口割合が高く、子育て世代の方が増えています。
- ・標準化死亡比では、女性の脳血管疾患、心疾患、男性の悪性新生物、心疾患の割合が高くなっています【図 107】。
- ・特定健康診査の受診率は、男女とも市の平均を上回っており、血圧・中性脂肪の値が高い傾向にあります【図 108】。
- ・がん検診受診率は、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん検診で市の平均を上回っていますが、市全体として受診率が低いため、今後も受診率向上のための取組みが必要です【図 109】。
- ・市民調査 (H24) では「楽しく食事をする」割合が高い反面「塩分、油分を気にしている」割合が低い傾向にあります。
- ・市民調査 (H24) では「地域の人はお互いに助け合っている」と思っている人の割合が高い傾向にあります。
- ・市民調査 (H24) では 20～30 歳代の運動量の低下が見られることから、若い世代からの運動習慣づくりを進める必要があります。

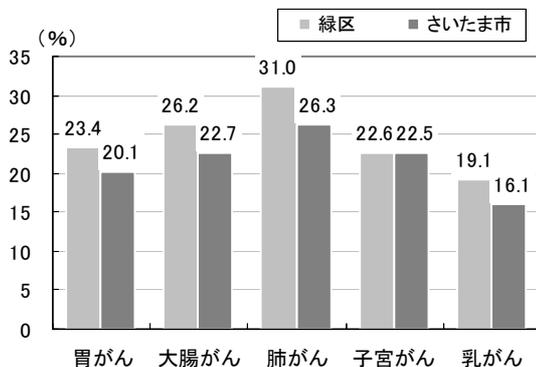
〔図 107 標準化死亡比（緑区：平成 15～19 年）〕



〔図 108 特定健康診査受診率（平成 22 年度）〕



〔図 109 がん検診受診率（平成 22 年度）〕



■健康づくりの目標

1. 子育て世代からの健康づくりを意識した生活スタイルの獲得
 - ・がん検診受診率の向上、適切な食習慣の獲得、運動習慣の獲得
2. 地域のつながりを生かしたコミュニティ間での協働
 - ・PTA・食生活改善推進員・自主グループ・民生委員協議会・商工会等

■目標実現に向けた主な取組み

- 若い世代からの適切な食習慣と運動習慣の獲得に向けた取組みを進めます。
保健センターでは、バランスのとれた食事や取組みやすい運動などをテーマにした教室を行います。
- 脳血管疾患・心疾患を予防するため、栄養・運動・生活に関する情報を、イベントや保健事業などの場で効果的な方法で提供します。
- 子育て世代も参加しやすいような保健事業に取組みます。
- 各種健（検）診の受診率向上のため、区報や保健事業での啓発、区役所の1階にパンフレットの設置を行うなど、普及啓発を行います。
- 公民館やその他、関連施設との連携を図るための情報収集を行います。また、保健師・栄養士・歯科衛生士が地域に出向いて健康づくりのための事業を行います。
- 保健事業へ参加し、継続的な運動を希望される方に自主グループを紹介するなど、健康づくりの自主グループ活動の支援に取組みます。
- 食生活改善推進員・自主グループ・民生委員協議会・PTA・商工会等、様々な地域の団体との連携を強化し、健康づくりのための保健活動を行います。

参考指標：がん検診受診率、運動習慣のある人の割合、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合

10 岩槻区



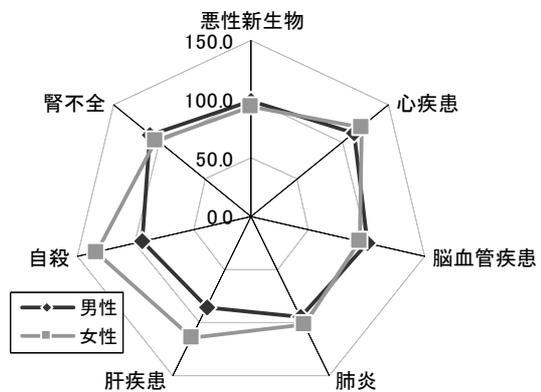
【区の概況】

市の東部に位置し、区域面積は49.16 km²と市内最大で、緩やかに起伏した台地の緑や元荒川の水辺など豊かな自然環境に富んでいます。代表的な憩いの場としては岩槻城址公園が挙げられます。また、全国有数の人形生産地としても知られており、江戸時代から始まった人形づくりは、岩槻の伝統的地場産業として、現在に至っています。

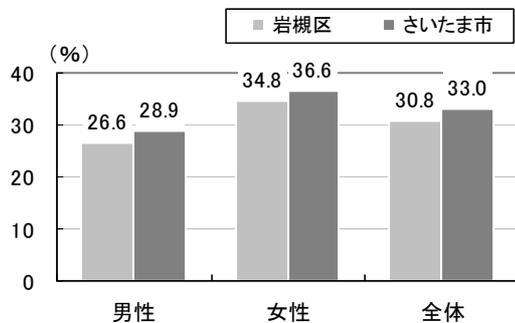
【健康づくりの現状と課題】

- ・高齢化率が23.5%と市内で最も高い一方で、合計特殊出生率は1.13と浦和区と並んで低くなっています。
- ・標準化死亡率に見る女性の自殺の割合が特に高く、心疾患、肝疾患も高くなっています。男性は心疾患の割合が高くなっています【図110】。
- ・特定健康診査の受診率は、男女ともに市の平均を下回っています【図111】。
- ・がん検診受診率は、全般的に市の平均を下回っており、特に胃がん検診、乳がん検診で大きく下回っています【図112】。
- ・乳幼児健康診査の受診率は10区の平均程度ですが、幼児歯科健康診査の受診率は10区の平均を10%程度下回っています。
- ・市民調査（H24）では、自分にとって適切な食事内容・量を知っている人の割合が高い一方で、食生活について気をつけている人の割合は少ないことから、適切な食習慣の普及を図る必要があります。
- ・市民調査（H24）では、女性では運動習慣のある人は多くなっていますが、男女共に取組みやすい運動機会の充実を図る必要があります。

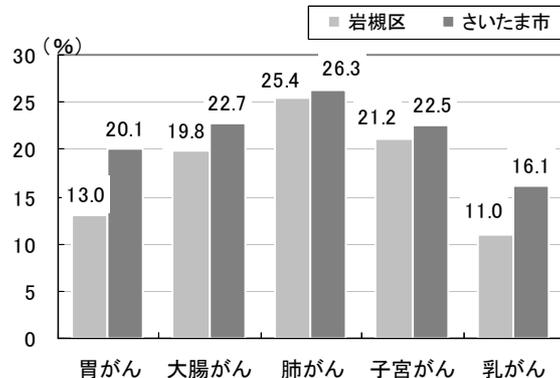
〔図110 標準化死亡率（岩槻区：平成15～19年）〕



〔図111 特定健康診査受診率（平成22年度）〕



〔図112 がん検診受診率（平成22年度）〕



【健康づくりの現状と課題】

- ・市民調査（H24）では、非喫煙者は少なく、吸い始めの年齢も20歳未満の人が多くなっています。一方で、喫煙者では本数は減らしたい人も多いことから、さらなる禁煙の取組みを進める必要があります。
- ・市民調査（H24）では、たばこやアルコールが健康に及ぼす影響についての関心が低いことから、健康への影響について啓発を推進する必要があります。
- ・市民調査（H24）では、地域のつながりがあると感じている人の割合が比較的高い傾向にあります。

■健康づくりの目標

1. 若い年代からの健康づくりのための意識向上

- ・禁煙（健康に及ぼす影響についての理解）、望ましい食習慣（適切な食事内容・量の理解と実践）・運動習慣（運動の必要性の理解と実践）の獲得

2. 健(検)診受診率の向上

- ・効果的な情報発信（PR活動）と地域との連携

■目標実現に向けた主な取組み

- 若い年代に関心のあるテーマで、生活習慣の改善につながるような体験型の教室を実施します。
- 地域のサークル活動の把握を行い、教室参加後の運動継続のための場の紹介に努めます。
- 健康への関心が低い層への働きかけの機会として、区内のイベント等とタイアップした普及啓発活動の展開を図ります。また、区役所ロビーに健康情報コーナーを設置し、来庁者へのPRを図ります。
- 受診率アップのために、強化月間を設けるとともに、年間を通して保健センター事業を利用した効果的なPR活動を推進します。
- 受診率アップのために、区内の団体・組織等との連携を強化し、効果的な受診勧奨を実施します。

参考指標：がん検診受診率、特定健康診査受診率